

令和3年度和歌山県文化功労賞

はん だ よしなが
半田 美永

住 所 三重県伊勢市
出身地 和歌山県紀の川市
生 年 昭和22年

◎ 業績及び経歴

昭和22年紀の川市に生まれる。昭和46年皇學館大学文学部国文学科を卒業後、同大学院文学研究科修士課程国文学専攻を修了。昭和53年同大学院文学研究科国文学専攻博士課程を単位取得満期退学。その後、智辯学園和歌山中学高等学校で教鞭を執り、昭和59年に皇學館大学文学部専任講師に着任。助教授、教授を歴任し、平成30年より名誉教授となる。平成15年『佐藤春夫研究』により文学博士号を取得。

日本近現代文学を専攻する国文学者として、地方固有の風土を文化論的な視点から考察し、古代から現代までの文学を時系列的に読み直すことにより、日本の伝統文化が異文化を取り込み変容しつつ成長する様を考証する精神史的研究をテーマとする。

30代の頃『和歌山県史』（通史編近現代一・二及び人物編）の編纂、執筆に関与したことを契機に、紀伊半島をめぐる作家や作品に着目した調査研究に長年にわたり取り組む。その成果は、著書『紀伊半島をめぐる文人たち—近代和歌山の文学風土』、『劇作家阪中正夫 伝記と資料』、『文人たちの紀伊半島—近代文学の余波と創造』、『有吉佐和子論—小説「紀ノ川」の謎』等を通じて世に示され、氏は文学分野における熊野学の先駆けとして県の文化振興に大きく寄与してきた。特に、戦後その業績が埋没していた阪中正夫が再評価されたのは、氏の研究功績の賜物といえる。さらに『近代作家の基層—文学の〈生成〉と〈再生〉序説』は、熊野・紀伊を視点においた文学論として高く評価された。

また、熊野のもつ豊かな自然・歴史・文化を研究し発信する国際熊野学会の副代表として後進指導を行うほか、10年以上にわたり日中の学术交流にも貢献してきた。

氏の長年にわたる紀伊半島を対象とした近代文学分野の研究成果は、本県の地域文化の向上発展に大きく寄与するものであり、功績は誠に多大である。

■ 現在

- 皇學館大学名誉教授
- 中国河南大学客座教授
- 河南師範大学客座教授

◆ 主な表彰歴等

昭和46年 皇學館大学総長賞